

「膠芽腫（GBM）長期生存例の検討：多施設共同研究」について

この度、当科（大阪大学医学部脳神経外科）におきまして、悪性脳腫瘍の患者様のより一層の治療効果改善のために、「膠芽腫（GBM）長期生存例の検討：多施設共同研究」と題した多施設共同での臨床研究を行うことになりました。

1.研究の概要

脳に発生する膠芽腫（グリオブラストーマ、GBM）は、最近の治療の進歩によって治療成績が向上してきました。しかし、本腫瘍はなお治療困難な疾患であり、新たな治療方法の開発が望まれます。このたび、日本脳腫瘍学会会員の所属する医療機関が共同で、膠芽腫の治療をお受けになった患者さんで、診断後 5 年以上生存しておられる方々について過去の診療データや手術時に摘出された試料を分析して、膠芽腫の患者さんのうちどのような方が治療後長期にわたって生存されているのかを明らかにし、今後の治療成績の向上に役立てることになりました。

2.研究の対象

研究の対象となるのは大阪大学医学部脳神経外科で悪性脳腫瘍に対し手術を受けられた患者様のうち、診断後 5 年以上の生存が確認されており、2014 年 11 月 13 日以降に当研究に関し書面で同意いただきました患者様です。

3.研究の方法

膠芽腫は、個々の治療施設における長期生存の方の数が少ないため、単独の施設だけの研究ではよい結果を得ることは期待できません。そのため、研究は多施設共同研究として、全国の施設（病院）で保管されている膠芽腫長期生存（診断後 5 年以上）の患者さんの過去の診療データや試料を個人名が特定できないようにした上で（匿名化）、多数例をまとめて分析します。

この研究は、過去の診療データや試料の分析を行うもので、患者さんに新たな危険、不利益を生じることはありません。

提供されるデータ・試料は、年齢・性別・病理診断・治療の内容や経過・病理プレパラート、MRI や CT などの画像検査結果です。

4.研究結果の公表

この研究により得られたデータは非常に重要ですので、個人情報が入らないようにした上でデータを学会や学術誌で発表し、また厳正な審査を受けて承認された研究者のみ利用を許可された公的データベースに登録して審査を経て許可された研究者と情報を共有することがあります。

5.個人情報保護に関する配慮

患者さんの試料や診療情報からは住所、氏名などは削られ新しく符号がつけられます(匿名化)。これらの解析結果については、大阪大学医学部脳神経外科および共同研究機関には守秘義務があり、患者さん及びご家族のプライバシーの保護には十分注意いたします。匿名化された情報は厳重に保管します。したがって、学会や学術誌などへの研究成果の発表またはデータベースへの登録などによって、患者さんの個人情報が漏れたり、特定されたりすることはありません。患者さんもしくはご家族がこの研究へのご参加を希望されない場合は、以下の連絡先までご連絡いただけましたら、その方の資料は本研究に利用しないようにいたします。

6.連絡先

本研究のお問い合わせ・紹介に関する連絡先は下記の通りです。また対象患者様で当研究への参加を同意頂けない場合もご連絡ください。

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2

大阪大学医学部 脳神経外科 橋本直哉、福屋章悟

FAX 06-6879-3659 TEL06-6879-3652